

# ボイラーはガスの時代へ。

オイルからガスへの転換提案書



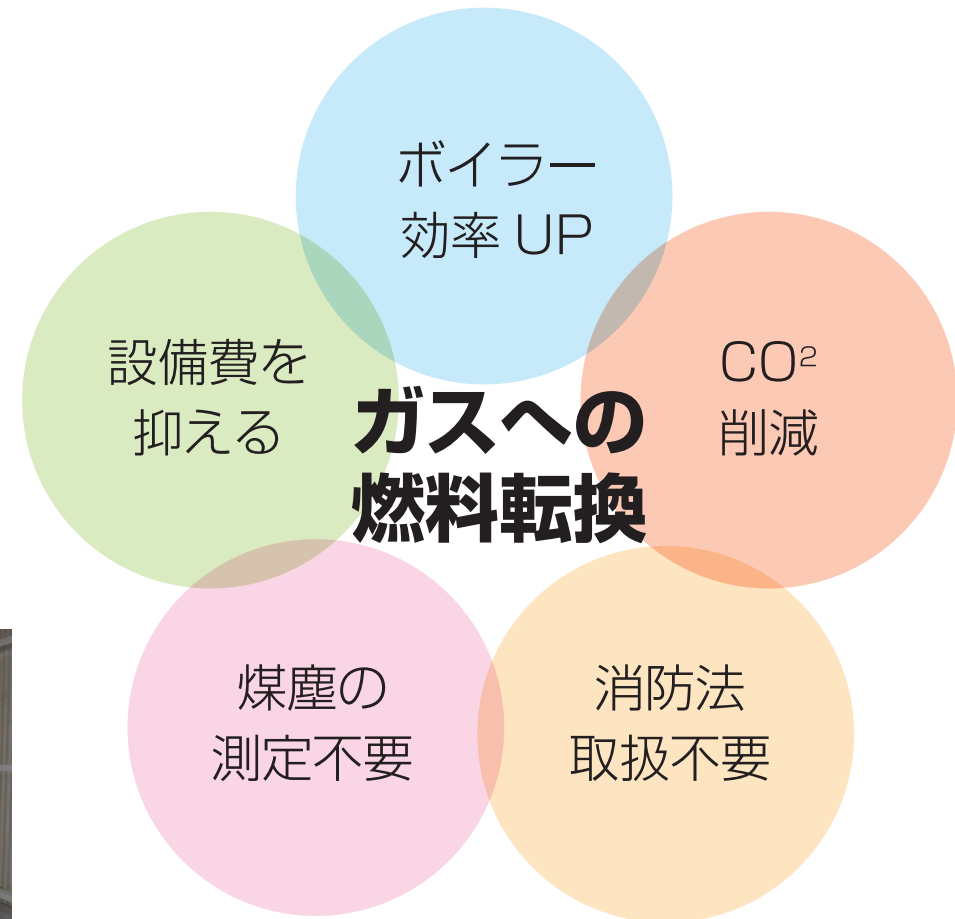
<http://www.ogasawara-k.com>

本社・工場 / 〒791-0054 愛媛県松山市空港通5丁目10-3 TEL 089-972-0043(代) FAX 089-973-5404

# はじめに

消防法の改正に伴い、設置後 40 年を超えた地下タンクに関しては新しい規制が対象になります。内面の FRP ライニングや高精度油面計の取付などを行わなければなりません。また、近年、プロパンガスと A 重油の価格差がなくなっており、省エネルギータイプのガスボイラーと変換することで、14%程度の熱効率を上げることができ、ガス転換による大きな利益を出せるようになりました。

当社ではプロパンガスの供給はもとより、ボイラー付属機器の製造も行っており、省エネ化の提案と共にプロパンガス・機器を供給する事ができます。



省エネ型ホットウエルタンク



充てん中



ガスボイラー

# ボイラー効率の比較



オイル焚きでは使用時間が長くなると煤などの付着によりボイラー効率が数%低下するがガス焚きでは清浄であるため低下もなく、新品の性能を長期間維持できます。  
また、省エネ提案と省エネ型の付属機器の導入により総合で120%の効率UPも可能です。



ガスボイラー

# 転換に伴う設備費について

LP ガスの供給設備であるガスタンク、蒸発器、ガスメーターは  
当社から10年リースで供給できますので、それ以外のボイラー、ボイラー付属機器、  
据付配管工事がガス転換の費用としてかかってきますが

費用の  $\frac{1}{3}$  日本LPガス団体  
協議会の  
補助が受けられます。

※全ての商品ではなく費用対効果の高いもののみとなります。



ボイラー



蒸発器



据付配管工事



ガスメーター

# A 重油とLP ガスの比較

	A 重油焚きの場合	LP ガス焚きの場合
煤塵測定	年 2 回の煤塵測定 (1 回あたり 3 万円の測定費)	<b>測定不要</b> 年間 6 万円 (3 万円 × 2 回) の 経費節約
消防法	A 重油の場合 1 日 2000ℓ 以上 使用するとボイラ室が一般取扱所 になりシャッターやドア、電気設備を 防爆仕様に、建物は耐火構造と しなければなりません。	<b>消防法に 制約されません</b>
CO <sub>2</sub>		<b>A 重油に比べ 12.5% 削減</b>

LPガスを蒸発させるためベパーライザー（蒸発器）が別途必要であり、  
LPガス使用量で100kg/h以下では電気を、  
100kg/h以上では自己ガスを消費するという注意点があります。  
電気をを使うか自己ガスを使うかは費用対効果で決めることになります。



バルク貯槽と蒸発器

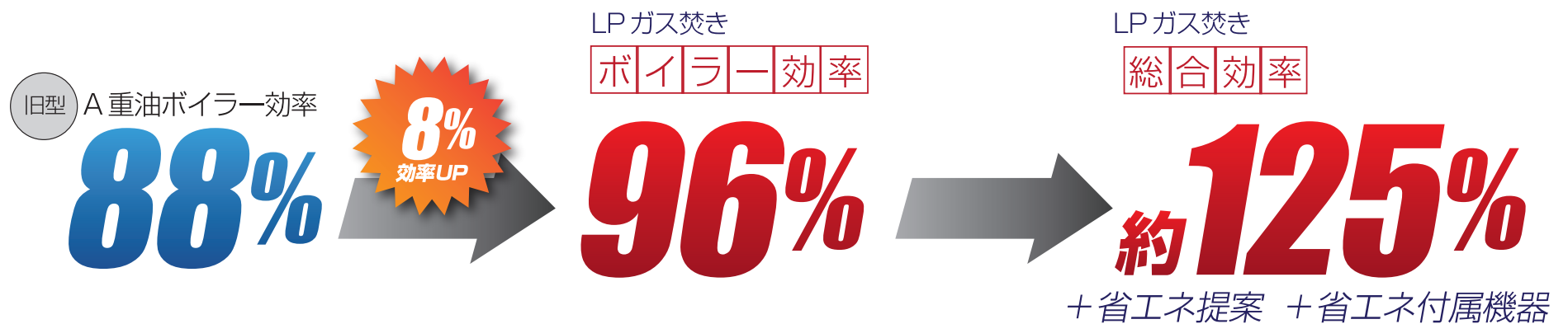


ベパーライザー（蒸発器）

# 最後に

年間の重油の使用量、フローシート、稼働時間などを提示していただければコストの積算や省エネ提案も出来ますので検討のほど宜しくお願いします。  
添付資料を参考にしてください。

## ① ガス転換事例



付属機器も省エネ型ホットウエルタンクの導入もしています。  
総工事費 **1500 万円**に対し **500 万円の補助**をもらいました。

## ② 補助金の概要

LP ガス版エネルギー使用合理化支援事業概要